

ことば



令和8年1月
舞鶴市立余内小学校
通級指導教室 75-0379

～新年あけましておめでとうございます～

冬休みが終わり、2026年（令和8年）が始まりました。今年も子どもたちが主体的に安心していきいきと活動したり、自分のめあてに向かって力を付けたりできるよう、一人一人に寄り添いながら指導・支援していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、冬休みはどのように過ごされたでしょうか。2学期末の指導の際に子どもたちに話を聞いてみると、「おじいちゃん、おばあちゃんの家へ行く。」「部屋の片付けをする。」などという答えが返ってきました。もっと詳しく聞くと、「おじいちゃん、おばあちゃんの家で家族みんなでおせちを食べる。」「初詣へ行ってお参りしてくる。」と「誰と・どこへ・何をするか」などを話してくれる子がたくさんいました。詳しく話すことで、相手に気持ちがより伝わって話がたくさん広がり、コミュニケーションの充実に繋がります。

3学期も学校や家でのことなど身近なことから会話が広がっていくよう、一人一人とのコミュニケーションも大切にして指導・支援していきたいと思えます。



1月の行事予定



8日（木） 3学期始業式
19日（月） 初回相談日
26日（月） 初回相談日



気象警報が出ている場合

（大雨警報・大雪警報・暴風警報・暴風雪警報）

4つの警報のうち1つでも発令されて臨時休校などになった場合、通級指導教室もお休みになります。

午前11時までに警報が解除された場合は、午後の指導を行います。

学年・学級閉鎖になった場合

在籍校で学年・学級閉鎖になった場合、お子さんが元気でも流行の拡大を防ぐために、指導はお休みになります。その場合は必ず通級指導教室までご連絡ください。

体調不良や都合等で欠席される場合も、必ずご連絡をよろしくお願いいたします。

『話を聴く時のポイント』



子どもは大人からすると内容がつかみにくい話やまとまりのない話をすることがあります。それは自分の気持ちや出来事を一生懸命伝えようとしている姿でもあります。今日は誰と遊んだか、食べたものや好きな本、空想など、子どもは無条件に聴いてもらえることで安心感や落ち着き、自信、認められた喜びを感じます。

傍にいる大人が話をじっくり聴くと子どもは「話すことが楽しい」「話す心が軽くなる」と感じ、もっと話したいと思うようになります。そこから豊かな表現力、語彙力も育まれます。

アメリカの臨床心理学の大家で、シカゴ大学、ウイコンシン大学などで教授を務めたカール・ロジャース博士は、アクティブ・リスニング（積極的傾聴）を提唱しました。どんなことを意識して話を聴けばいいのでしょうか？

共感する

子どもが話をしているときは、子どもの立場になって共感しながら聴きます。「疲れた」と言ったら「疲れたね」と子どもの言葉をくり返したり、「へえ」「そうなんだね」と相づちを打ったりうなずいたりしながら聴きます。



否定しない

子どもの話を聴く時は、主役はあくまでも話し相手である子どもなので、立場が逆転しないように気を付けます。そのためには、「〇〇したほうがいい」「△△しなさい」などと大人の意見を押しつけず、質問する時にもできるだけ短めにし、話題を変えないようにします。

たとえ、子どもの話が間違っただけの内容でも、「でも」「だけど」と否定せず、肯定的に話を聴きます。子どもが間違っただけのやり方で何かしてしまった場合でも、まずは否定せず、共感してから意見やアドバイスを伝えると、子どもは素直に受け入れやすくなります。



話の内容をよく確認する

子どもの話でわからないところをそのまま聴き流してしまうと、子どもは「話を真剣に聴いてくれない」と感じてしまいます。わからないときは質問し、詳しい内容を確認します。



「余裕」をもつ

ストレスや過労でイライラしたり疲れていたりすると、子どもが話しかけてもうわの空になってしまいます。子どもの話をしっかりと聴くには、大人も心身ともに余裕が必要です。温かい飲み物を飲む、好きな音楽を聞く、等短い時間でも心が落ち着く瞬間をつくることで余裕が生まれます。



寒さが一段と厳しくなる1月。外での遊びが思うようにできず、室内で過ごす時間が増えていきます。そんな時期こそ、お子さまとたくさんお話ができるといいですね。

参考文献：加藤 紀子『最先端の新常識×子どもに1番大事なことが1冊で全部丸わかり子育てベスト100』

／ダイヤモンド社